

令和8年度  
下市町学校園教育推進方針



令和8年4月1日  
下市町教育委員会

# 1 「下市町学校園教育推進方針」の位置付け

この方針は、下市町の総合教育会議（町長及び教育長・教育委員で構成）で策定された下市町「第3期教育大綱」に基づき、令和8年度における「町立学校園教育を推進するための方向性」を示すものです。

## 2 令和7年度の学校園教育の重点

町教育委員会では、義務教育学校「**下市あきつ学園**」について、次の3つの基本理念と10の方向性を設定しています。これは「**下市こども園**」の就学前教育が目指す姿の指標としても参考に活用します。園・学校は、この内容を十分に理解するとともに意識しながら、進めていきます。

### 3つの基本理念と10の方向性

#### 3つの基本理念

##### 自由な校風

「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求することのなく、多様性を尊重する中で、子どもが個性を輝かせ、主体的に学ぶ姿勢を育む。

##### 未来志向

基礎学力の定着を図ること。そして、デジタルとアナログを最適に組み合わせ、社会を生き抜く課題解決力やプレゼンテーション力を育む。

##### 「絆」づくり

共に働き、お互いを尊重する気風を醸成し、心理的安全性の高い環境を整えることにより、人や地域との「絆」を深める。

#### 10の方向性

① **学ぶ意欲** すぐ目に見える結果（瞬発的な学力）だけを求めず、子どもが**自ら学ぼうとする意欲を引き出し**ながら、9年間の長期的な視野をもって教育を進めている学校

② **生きる力** 「一人一人の幸せ」が「よりよい社会を創る原動力」となり、**変化に対応して、自ら課題を解決する力を身に付ける**ことを重視する学校

③ **探求的な学び** 基礎的・基本的な内容の習得を図り、**課題の設定、情報の収集、整理・分析したものを発信**することを重視する学校

④ **深い学び** 個別の学習と集団の学習を効果的に行い、「好き」を育み「得意」を伸ばし、多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにする学校

⑤ **最小限の校則** 校則やルールは最小限に直し、**自ら考え判断する力**を大切にする学校

⑥ **郷土学習とSDGs・ESD** 郷土学習「**下市学**」を学びの場である**地域をフィールドとして実施し、持続可能な社会の実現**を目指した総合的な学習を学びの中心に置いている学校

⑦ **デジタルとアナログの共存** それぞれの強みを理解し、適切に組み合わせ**て新しい時代の中で生き抜く力**を付けようとする学校

⑧ **共生の文化** お互いの違いを認め合い、多様な他者と**共に支え合い、誰一人取り残さない環境づくり**を積極的に取り組んでいる学校

⑨ **心理的安全性の確保** **意見の相違を恐れずに学び、挑戦できる環境**のある学校

⑩ **教職員の連携** 教職員一人だけで抱えることなく、一人の**子どもは教職員みんなで教育**するという理念を共有し、教職員の**集団意識**のある学校

## 「10の方向性」へ進んでいくために

### 1 健やかな成長を図るために基本的な生活習慣を身に付けさせること 主に①②

子どもたちの健やかな成長のためには適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠など基本的な生活習慣が大切です。近年、スマホやゲーム等による子どもたちの生活習慣の乱れが学習意欲、体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。**家庭における食事、睡眠などの乱れを個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく、子どもたちの基本的な生活習慣を確立させ、生活リズムの向上を図るための取組を積極的に進めてください。**

### 2 自由服で登校する意味とオフィシャル・マナー等について理解させること 主に②⑤⑧⑨

自分の好きなスタイルを選ぶことは、自己肯定感を高め、他者との「違い」を認め合う土壌を作ります。また、性別に関わらず、自分が最も心地よく、自分らしいと感じる服装を選ぶことは、多様性への配慮や心理的安全性の確保に直結します。制服を着たい人は着ればいいし、着たくない人は着なくていい。多様な価値観があり、文化的背景があり、個性や特徴がある人みんなが、誰一人取り残されずに教育をうけることができるように、『下市あきつ学園』は、自由服を選択しています。

**服装は、一日の始まりの「最初の自己選択」として、子どもたちに返還します。**

**決まったルールに従うだけでなく、状況に応じて最適な服装を選択する能力は、社会に出てから即戦力となるスキルであり、グローバルな視点のはじまりです。しかし、社会的なオフィシャル・マナーや礼儀・丁寧な言葉遣いについては、制服があろうがなかろうが学ばせることは重要ですので、適宜その機会を設けてください。**

### 3 「考え、議論する道徳」を追究し、道徳教育を充実させること 主に②⑧⑨

子どもたちが、生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範等の道徳性を身に付けることは、変化の激しい時代を『生き抜く力』の核となります。現実のいじめの問題等に対応できる資質・能力を育むためには、「あなたならどうするか」を真正面から問い、自分自身のこととして、多面的・多角的に考える力が不可欠です。また**真の学力等を身に付けるためにも、子どもたちが安心して発言・行動でき、互いを認め合って成長することが重要となるため、心理的安全性の高い集団づくりに積極的に取り組んでください。**そのためには、道徳の時間に限らず、朝や終わりの会、短学活で様々な事象等を話題にして、常に子どもたちに考える機会を与えることを心がけてください。

### 4 「下市学×郷土学習」を全学年一貫したねらいで実施すること 主に①②③④⑥

『下市学』は、**下市のことを学び、さらに下市のことをきっかけにして、グローバル、持続可能性の視点、すなわちSDGsやESDを柱にした学びを組み立てます。**この課題解決学習は、まさに主体的、対話的で深い学びを実現する児童生徒を育むことをねらいとします。**毎年、学習発表会を開催し、その成果を共有してください。**

本当の学力とは何か、9年間を見通して育むべき『生きる力』とは何か、を追究する『下市型教育』の実践から定着へとさらなる高みをめざしてください。この取組は、『基礎学力』の向上にもつながります。

この『下市学』に、R8年度予算を計上していますので、経費として活用してください。

※ESD……持続可能な社会の創り手を育てる教育

## 5 デジタル学習基盤とアナログ学習環境を最適に組み合わせること 主に③④⑦

サイバー空間と現実空間を融合した新しい社会を Society 5.0 として掲げ、社会のさまざまな課題の解決に期待されるなか、現在、6次通信の研究開発が始まっています。これからの社会の創り手となる子どもたちは、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための資質として、「情報活用能力」「情報セキュリティリテラシー」を身に付け、情報社会に対応していく力を備えることが、ますます重要となっています。

プロジェクターと白板を活用し、子どもの机の上にある端末とつないだ状態で授業を進めています。デジタル学習基盤を活用すること。個別最適な学びを実現するために AI ドリルを活用して、基礎基本の反復練習を行うこと。生成 AI の導入の研究等をめざします。

また、デジタル学習基盤のみに頼ることなく、「ペンで書く、書き留める」などアナログ的な学習を作為的に取り入れ、その活用を工夫してください。

デジタルとアナログの関係は、「情報収集と保存はデジタル、思考の錬成と定着はアナログ」とされているように、両者を分断するのではなく、学習プロセスの中に組み込む『ハイブリッド活用』が必要です。授業計画のなかでどのように組み合わせていくのか、また今後導入されるデジタル教科書と従来の紙媒体の教科書をどのように組み合わせていくのかを研究し、効果的・効率的な学習を進めてください。

## 6 学力の基礎となる「読解力」の向上をめざすこと 主に①②③④⑦

『読解力』を身に付けることは、基礎学力の『読む力』高め、さらには『書く力』の向上につながります。また、社会の変化に対応し、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動できるような力を身につけるための基盤になるものです。つまり、単に「本が読める」というだけではなく、「情報を正確に理解し、知識として定着させる力」を意味し、『生きる力』の根幹であると考えます。『読書活動』の機会を増やし、読書の習慣を身に付けさせることや県教委が進めている『読解力向上プロジェクト』を積極的に活用し取り組んでください。

## 7 基礎基本を基盤に据えた「教えないスキル」で育む力を活かしていくこと 主に①②③④⑦

学習指導要領に基づき、『教える』という概念を子どもの『学び』を実現するために支援するという概念に変え、学校教育の中心だった「知識伝授型教育」から「課題解決型教育」へ転換しています。しかし、課題解決学習や探究学習を行うためには、まずは基礎的な知識や基本的な技能（読み・書き・計算）を身に付けさせ、「教えないといけない」ことは、しっかり指導してください。

令和4年度から県教委の指定を受けている『学ぶ力育成事業』を実践し、「子どもたちが自分で調べること、そして自分と異なった意見を聞くためにグループで話し合うことや自分を成長させるために振り返りを行うこと、その結果、次の課題に気付くこと、…など」、授業展開の工夫改善を重ね、その成果も徐々に現れています。これからも先生方が、研究方針や手立てを心の底から理解し、それを常に心がけていきましょう。それらのことを踏まえて 1~9年生まで、段階を踏まえた指導体制を確立してください。

研究の質を高めるためにも、県内外教育関係者に向けて、『研究実践報告会』を公開で実施し、広く発信することを定着させましょう。令和8年度予算に、そのための経費を計上しています。

## 8 グローバル化や国際化に対応した教育の充実を図ること 主に②⑥⑧

グローバル化や国際化が急速に進展する中で、子どもたちの将来の職業的・社会的な環境を考えると、外国語、特に国際共通語である英語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、多様な方々と関わる場面で必要とされることが想定されます。AI翻訳が普及しても、語学学習は不要となるわけではありません。機械を通した会話は『情報の伝達』には優れていますが、『心の共有』には限界があります。異文化交流を進めるとともに、昨年度から、ALTを2名に増員し、こども園からの英語教育を充実し、体系的に学習を進めます。

## 9 グループ担任制で複数の教員で子どもを見ること 主に⑨⑩

教職員が組織的に動くような体制ではない場合は、一人の学級担任が全てを抱え込み、保護者からの不信感の対応に四苦八苦する事態が存在します。義務教育学校では、教員の人数の問題として、グループ担任制を機能させることができやすくなります。子どもや保護者の側から見ても、複数の教員に相談できるメリットがあります。ただし、教員同士の協力がなければ機能不全を起こすことがあり、すべての教員が『職業人』として協力し合える関係をつくり、情報交換を密にして実施していくことが大切です。まさに、『心理的安全性』の高い職場環境を構築することが、下市あきつ学園の指導理念の実現につながります。

## 10 不登校傾向のある児童生徒への支援に取り組むこと 主に⑧⑨

全国的に、不登校傾向がある児童生徒の人数が増加しています。その背景は様々ですが、「誰一人取り残さない」というスローガンの下で、どんな状況にある子どもそれぞれに合った教育を進めていく必要があります。それは、教室に入ることを目標にするのではなく、その子自身の学びを大切にすることが目的です。

下市あきつ学園では、『かけはし』教室を設置し、常時開室できるように教員等を配置します。児童生徒が自らの学習や活動を、教員と相談しながら組み立て、場合によっては各学級教室での授業をオンラインで受けることも認めます。しかし、学級教室が嫌になったから、すぐに『かけはし』教室に行く」となる場所ではありません。緊急避難的に一時利用することは別として、基本的には保護者の同意に基づき、学級担任やカウンセラーとの相談を踏まえた上で校長が判断し入室させます。担当教員は、在籍する不登校児童生徒の状況を把握し、学級担任へ報告します。ただし、入室しても学級担任や教科担任がその児童生徒、保護者との関わりを弱めることなく、しっかりつながってください。

また、学校に登校できない児童生徒が、まず一歩踏み出す場として、多様な学びの場として、『ルームかけはし』を下市観光文化センター内に設置する予定です。

## 11 下市こども園と下市あきつ学園の架け橋となる取組を行うこと 主に⑧⑩

こども園での遊びや活動を通じた保育・教育のねらいの大半は、下市あきつ学園の教育へとつながっています。したがって、お互いの教育内容や重点を理解した上で、実践していく必要があります。引き続き、教員の交流や合同研修、子ども同士の交流を積極的に進めてください。

教育理念を共有することで、小1プロブレム(集団行動がとれない、授業中座ってられない、話を聞かないなどの状態が続くことなど)と呼ばれる壁を低くし、0~15才までの真の一貫教育をめざしましょう。

<義務教育学校のメリットを最大限に生かしたグループ担任制>

グループ担任制を導入し、3人の担任がしっかりサポートします。



※ 主担任だけでなく、管理職以外の30名近い教員の多くがいずれかの学年を担当。

★ 具体的な運用方法

- 1年生から8年生までを2学年ずつに分け、それぞれに3人の主担任を配置。各教員の持ち味を生かして、児童生徒の個性に応じた対応ができるように取り組んでいる。ただし、1・2年生は主担当を決め、9年生は担任1人であるが、進路主任他多くの教員が関わる。担任以外に学年所属の教員も配置する。

★ グループ担任制導入の意図

固定担任制

- 子どもとの結びつきが強いという良い面がある一方で、学級の全てを1人の教員に委ねる面が強い。
- 一度子どもを一面的に捉えてしまうと、違った見方ができにくい。
- 子どもや保護者から、一時的に信頼関係を失ってしまったときの対応が難しい。
- 子どもや保護者の思いに応えたい気持ちが強く、担任1人で必要以上に問題を抱え込んでしまう状況が起こりえる。

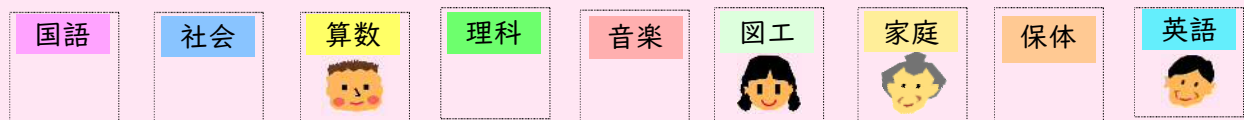
グループ担任制

- 複数の教員で、多様な教育観をすり合わせ確認しながら学級経営ができる。
- 経験の浅い教員でも、経験の豊かな教員とともに担任ができ、安定感が生まれる。
- 子どもや保護者は、時と場合、内容によって、複数の担任のうち誰かに相談できる。
- 複数の目で多角的に子どもをとらえ、いじめへの対応や学習遅れの対応がきめ細かくできる。
- もし、子どもたちと教員との間に不信感が生まれても、その原因を複数で冷静に分析できる。

<教科担任>

3年生以上は、教科で教える先生が変わります。

- 前期課程のきめ細かい指導技能と、後期課程の教科専門性の両方の良い面を取り入れる等、多くの教員で子どもに関わる。ICTをも効果的に活用し、新時代の質の高い授業を行う。



<令和8年度の教科担当(予)> ○…担任が授業、◎…グループ担任が授業、●…担任以外が授業

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	保体	英語
1年生	○	△	○	△	○	●	●	△	◎	△
2年生	○	△	○	△	○	●	●	△	◎	△
3年生	◎	◎	◎	◎	△	●	●	△	◎	●
4年生	◎	◎	◎	◎	△	●	●	△	◎	●
5年生	◎	●	◎	◎	△	●	●	●	◎	●
6年生	◎	●	◎	◎	△	●	●	●	◎	●

### 3 「第3期 教育大綱」における各取組項目（学校教育19項目）の推進

#### ① 目指す子ども像

- 変化を前向きに受けとめ、新たな時代を生き抜く子ども
- 国際社会に目を向けながらも、これからの「下市」を築いていく子ども

	取 組 項 目	対象	指標の一例
①	地域との交流・連携を深め、コミュニティ・スクールの充実と活性化を図る。	園学校	地域交流やボランティアの活動状況
②	園・学校一貫した郷土・伝統文化教育をはじめ、課題解決型学習に取り組む。	園学校	教科担任制の実施状況
③	海外の情報収集や異文化交流等により、国際的な視野を広める。	学校	カリキュラムの構築状況
④	A L Tを活用し、園・学校が継続した英語力を育むための実践研究を進める。	園学校	授業実践の状況

#### ② 確かな学力を育むために <知識・技能に加え重視する3つの力>

- 文章や情報を正確に読み解き、対話する力（表現力）
- 問題を解決するための思考力と確かな意思決定をするための判断力（思考力、判断力）
- 現実世界にときめく感性と創造性・好奇心・探究力（学びに向かう力、人間力）

	取 組 項 目	対象	指標の一例
⑤	情報収集したことや学んだことを他者へ発信（アウトプット）する力を育む。	園学校	プレゼン活動等の取組度合
⑥	具体的な読書活動を取り入れ、『読む・書く』等、基礎的な力を育む。	園学校	読書量、取組の度合
⑦	情報セキュリティリテラシーを含めた ICT スキルを身に付け、情報活用能力を育む。	学校	ICTスキル向上の機会増加
⑧	物事を筋道立てて考える力と最適な解決策を選択・決定する力を育む。	園学校	課題解決型学習等の度合
⑨	体験活動を重視し、新たなことに気付いたり発見したりして、感性を磨く。	園学校	体験活動の実施度合
⑩	子ども一人一人の好奇心を高め、協働的に探究する力を育む。	園学校	授業研究、研修の度合

#### ③ 心と身体を育むために <重視する5つの目標>

- 健全な食生活のもと、運動への意欲を高め、体力の向上を図る。
- 環境問題、防災等に取り組むための知識と態度を養う
- 高い人権意識を身に付け、多文化共生、違いを認め合う力を付ける
- 個別の教育的ニーズを把握した特別支援教育を行う
- 教育環境を常に最善の状態に維持する

	取 組 項 目	対象	指標の一例
⑪	『早寝早起き朝ごはん』『適切な運動』等、基本的な生活習慣を啓発し確立する。	園学校	生活等の実態調査等
⑫	生涯スポーツの基礎として、運動好きな子どもを育てるための授業研究や取組を行う。	園学校	授業研究や実施度合
⑬	環境問題等と向き合い、持続可能な社会の実現を目指す知識・態度を養う。	園学校	環境問題等の授業状況
⑭	心理的安全性の高い集団を目指すとともに、『いじめ』の早期発見・早期解決を図る。	園学校	いじめ事案等の件数
⑮	道徳の授業や教育活動全般において、国際社会でも通用するような人権感覚を育む。	園学校	人権を考え合う機会の数
⑯	自立と社会参加を見据え、能力を最大限に発揮できるような特別支援教育を目指す。	園学校	特支指導の研修の状況
⑰	子ども困難さやその要因と障害の特性を理解し、通級指導の充実を図る。	学校	通級教室の有無・人数
⑱	教職員は常に研修(デジタル学習基盤や教科指導等)を怠らず、向上心をもって教育に当たる。	園学校	職員研修の状況
⑲	安全・安心を基本に、施設・設備を最善の状態に維持する。	園学校	施設・設備の点検状況